

民陵居而多風、水土剛強、其民不衣而疊、其民窄食、脂肥故耶、不能傷其形體、其病皆生於內、其治宜毒藥、毒藥從西方來、

〔頓醫抄三十四〕一疥癩治方略〇中

凡病有六種、第一次第不調、第二飲食不調、第三座禪不調、第四業病、第五魔病、第六鬼病、

右六種之中、魔、鬼ノ二病ハ、以神呪治之、非法威力者不能治之、座禪一病者、還依座禪治之、業病ハ、以罪障懺悔之力治之、四大不調、飲食不調者、醫師所治也、但除業病、是四大各有百一病、合成四百四病、此則莫不發五藏者、四大不調者、地水火風也、

〔本朝醫談〕又病因を物の怪のやうにいへるは、佛學世に行はれて、釋氏鬼病の説の、世上に弘まりたるにあらず、總てまじなひ祈禱して、本復する症は、皆鬼病なり、其外は多く飲食より起る病なり、故に唐土の古人も、病因に鬼食をいへり、左傳醫和曰、萬葉集に、病從口入、故君子節其飲食、人遇疾病不必妖鬼といへるは、よく病因を説といふべし、物怪のくすり、女傳集に出づ、

〔頓醫抄十二〕夫人ハ天地陰陽ヲウケテ生ズ、蓋天ニ六氣アリ、故ニ人ニ三陰三陽アリテコレニ應ズ、地ニ五行アリ、人ニ五臟五府アリ、コレニ應ズ、コヽニ或ハ四百四病ト名ケ、或ハ萬病ト稱ス、其ウチ巢元方病源論ニハ、千八百ノ門ヲタテ、一門ノシタニ各衆病ヲアカセリ、シカリトイヘドモ、病萬差ニシテ、ナホツクスコトアタハズ、コヽニ陳言無擇ガ三因方ニ、三ノ因ヲタテ、萬病ヲオサムルニ、病トシテツキズト云コトナシ、其三因ト云ハ、一ニハ内因、二ニハ外因、三ニハ不内外因、コレナリ、内因ト云ハ、七氣ノ病ナリ、イハク、喜怒、憂、思、悲、恐、驚ノ七ノ氣ハ、内心ヨリ生ズル病ナルユヘニ、内因ト名ヅク、

〔太平記二十五〕宮方怨靈會六本杉事附醫師評定事

足利左兵衛督ノ北方相勞ル事有テ、和氣丹波ノ兩流ノ博士、本道、外科、一代ノ名醫數十人被招請